

企業物価指数って、なにを表しているのか

～ 日本銀行「企業物価指数（2026年8月速報）」2026年9月11日公表 ～

企業どうしがモノを売り買いするときの値段を指数にしたもの。私たちが店で払う「消費者物価」より一歩手前の段階の物価にあたる

+7.6%

国内企業物価・前年比
1年前より7.6%高い

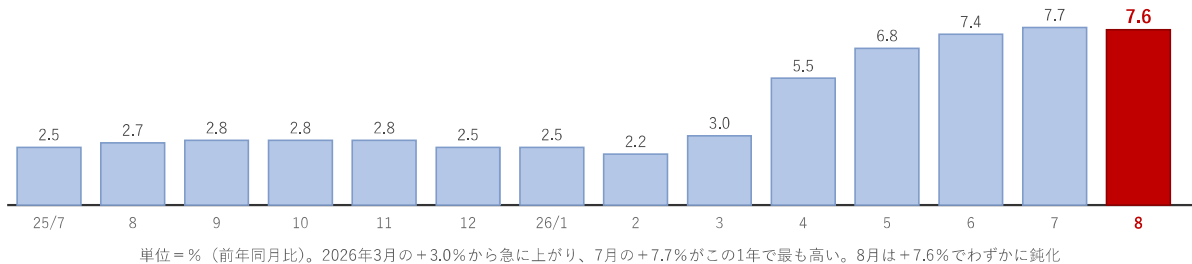
▲0.2%

国内企業物価・前月比
1年ぶりの下落

▲2.4%

為替（ドル/円）前月比
マイナスは円高を示す

① 国内企業物価は1年前より7.6%高い（前年比の推移）



② 8月に値段を動かした品目（前月比▲0.2%への寄与度）

非鉄金属	+0.10	銅、アルミニウム合金ダイカスト、金地金
飲料品	+0.04	冷凍調理食品、菓子パン、水産びん・かん詰
プラスチック製品	+0.04	プラスチックフィルム・シート ほか
金属製品	+0.02	金属製管継手、金属製パッキン ほか
情報通信機器・鉄鋼	+0.01	パソコン、無線応用装置／小形棒鋼 ほか
スクラップ類	▲0.04	鉄屑、銅・アルミニウム屑
石油・石炭製品	▲0.12	B重油・C重油、ジェット燃料油、潤滑油
農林水産物	▲0.12	精米、豚肉、しらす干し
電力・都市ガス・水道	▲0.14	都市ガス、事業用電力

③ 「円ベース」と「契約通貨ベース」の差が、円高の効果

輸入物価（8月・前月比） 契約通貨ベース ▲1.0% / 円ベース ▲3.0%

輸出物価（8月・前月比） 契約通貨ベース +0.6% / 円ベース ▲0.7%

契約通貨ベースは「取引に使われた通貨のままの値段」、円ベースは「それを円に直した値段」。8月は為替が前月比▲2.4%の円高になったため、円に直すと値段が下がった。輸出は現地通貨では値上がりしていたのに、円に直すと値下がりに転じている。

前年比では、まだ大幅高

輸入物価 +24.8%（円ベース）

輸出物価 +17.9%（円ベース）

月ごとには下がっても、1年前と比べればまだかなり高い水準にある。

④ 速報から読み取れること

- 国内企業物価は前月比▲0.2%で、**2025年8月以来1年ぶりの下落**。ただし前年比は+7.6%と依然として高い。
- 下げたのは電力・都市ガス・水道（▲0.14）、農林水産物（▲0.12、精米や豚肉）、石油・石炭製品（▲0.12）。上げたのは非鉄金属（+0.10、銅や金地金）。
- 類別の前年比では**非鉄金属が+43.3%**と突出し、指数は261.1（2020年の約2.6倍）。ほかに情報通信機器+19.5%、石油・石炭製品+14.7%、化学製品+13.9%。
- 輸入物価が円ベースで大きく下がったのは、資源価格の下落に加えて**円高が重なった**ため。石油・石炭・天然ガスが契約通貨ベースで▲1.18%の寄与（原油、ナフサ、液化石油ガス）。

⑤ 用語（高校生向け）

- ・**企業物価指数（CGPI）**… 企業どうしの取引価格の動きを表す指数。2020年の平均を100とする。日本銀行が毎月公表している。
- ・**国内／輸出／輸入**… 国内で売り買いされるモノ、海外へ売るモノ、海外から買うモノで、3つに分けて公表される。
- ・**前月比と前年比**… 前月比は1か月前との比較で足元の勢い、前年比は1年前との比較で水準の高さを示す。8月は「前月比マイナス・前年比プラス」で、上がり方が一服したが水準は高いという状態。
- ・**寄与度**… その品目グループが全体を何%動かしたか。ウェイト（取引額の大きさ）が大きいほど影響も大きくなる。
- ・**夏季電力料金調整後**… 7～9月だけ適用される電力の割増料金を除いた指数。8月は136.0（前年比+7.7%）。

出典：日本銀行調査統計局「企業物価指数（2026年8月速報）」2026年9月11日公表 https://www.boj.or.jp/statistics/pi/cgpi_release/cgpi2608.pdf

※ 指数はいずれも2020年平均＝100。8月分は速報値であり、確報で改訂される場合がある（前月までの計数にも訂正値が含まれる）。

※ 次回の企業物価指数の公表日は2026年10月13日（火）。